

「はー…
このガキ…
声「つ上げやしねえ…っ!!」

「ふ…
ふ…
ふ…」

「はく情けねえな
こんなガキま●こ
イかせられねえとか…」

「イイねえ
こういうのを
アへらすのが楽しいんだよ」



「さあ次は俺だぜ
しっかり可愛がってやるからな♡」

「っ!？」

「へへっ
顔が引きつってるぜ
さっきまでの余裕はどうしたよ? (笑)」

(な…なによ…
こ…んなの……)

「ティータちゃんと同じように
ガンガンイかしまくってやるぜ♡」

「それとティータちゃんは
もう出荷しちゃったから
ここにはいないぜレンちゃん」

「…し…出荷……?」



「んっん…ぐ…っー」

「おー…気持ちいい…♡」

「ぐ…っん…んぐツ!!」

「いい反応するじゃねえか
子宮口弱えのか?
ま●こビクビクしてるぜ♡」

「ん…ぎ…っぐ…!!」

「ぐ…っお…!?!
き…急に…締…まりが…
根元から…や…やば…い…!!」



ずちゅ

ずちゅ

「あああっ！く！く！く！く！！
孕めっ！孕め！俺のガキ孕めオラあああっ！！」

「ぐっんぐん！！」

「ふ……はあ……♡
子宮口突いたら……
急に締めまりが……油断してた……ぜ……」

「ふ……♡……♡」

「まっ
弱えっことは分かったし
次はアへ声楽しませてもらうぜ(笑)」

「しっかり調教してやるからな
レンちゃん♡」



「数日後」

「そ…んな…
あ…あ…」

「へっ感動の再会だな」

「おうエステルちゃんだっけ？
どうよこれ？」

「いい感じに仕上がってるだろ
レンちゃん♡」

「い…あア…おあ…♡」

「じっくり目に焼き付けときな
レンちゃんもう出荷するから
二度と会えないぜ(笑)」

「し…出荷…?」

「お手軽価格で
肉便器を届けるのが
俺たちの仕事だからな」

「…あ…お…ぐ…♡
…い…ひ…ば…ん…奥…♡」

「んじゃさっそく
エステルま●こ調教始めるか
ち●ぽの事しか考えられない
ようにしてやるからな♡」

「ふ…ふや…いあ…あ…あ…」













